

オオムギ縞萎縮病に強く多収の ビール大麦品種「はるみやび」

農産部

1 背景、目的

オオムギ縞萎縮病はビール大麦における重要な土壌伝染性病害であり、被害が全国的に拡大しています。本病のウイルスは5系統あり、九州北部地域においてはⅢ型のウイルス系統による被害が発生していますが、他の系統の侵入も懸念されています。また、既存品種は収量が不安定なためビール大麦契約数量達成率は低迷しており、多収品種が生産者や実需者から望まれています。

そこで、オオムギ縞萎縮ウイルス5系統の全てに抵抗性を有し、多収で外観品質ならびに麦芽品質が優れる品種を育成しました。

2 成果の内容、特徴

「はるみやび」は、平成10年に「吉系56（後のしゅんれい）」を母、「関東二条32号（後のスカイゴールデン）」を父として交配した組み合わせから、オオムギ縞萎縮病抵抗性、多収、早生、高醸造適性、外観品質良を育種目標に育成しました。

本品種は、標準品種の「ほうしゅん」に比較して、次のような特徴があります。

- 1) オオムギ縞萎縮ウイルス系統Ⅰ～Ⅴ型の全てに抵抗性です（表1）。
- 2) 成熟期はほぼ同等の早生品種です。稈長は短いため倒伏に強く、穂数はやや多く、千粒重が重いため多収です。被害粒の発生が少なく、検査等級は同程度に優れています（表2）。
- 3) 麦芽品質総合評点は、同等に優れ、高い醸造適性を備えています（表2）。

3 主要なデータなど

表1 「はるみやび」のオオムギ縞萎縮病抵抗性

品種名	オオムギ 縞萎縮病				
	I型	II型	III型	IV型	V型
はるみやび	抵抗性	抵抗性	抵抗性	抵抗性	抵抗性
ほうしゅん	抵抗性	抵抗性	感受性	抵抗性	抵抗性

表2 「はるみやび」の生育・収量特性、外観及び麦芽品質

品種名	成熟期 月・日	稈長 cm	穂数 本/m ²	整粒重 kg/a	標準比率 %	整粒千粒重 g	被害粒発生率 %	検査等級	麦芽品質 総合評点
はるみやび	5.23	86	527	49.0	118	45.1	2.0	4.7	78.8
ほうしゅん	5.22	91	510	41.5	100	39.6	4.9	5.5	77.1

- 注) 1. 平成18年～23年度の平均値。ただし、麦芽品質総合評点(栃木農試における分析)は平成18年～22年度の平均値。
 2. 被害粒発生率は、側面裂皮粒、凸腹粒、剥皮粒の各発生率の合計値。
 3. 検査等級は、1～3 = 1等上～下、4～6 = 2等上～下、7 = 等外上、8 = 不適。

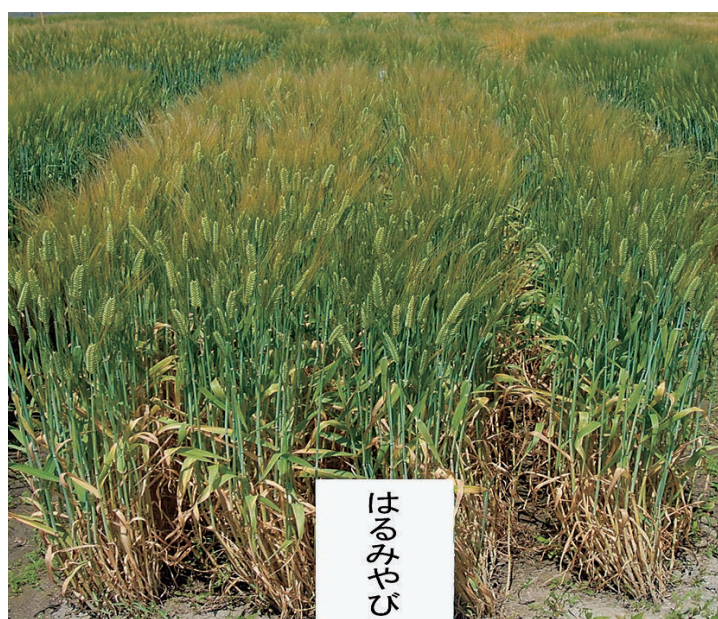


図1 成熟期外観